

一平日との比較において一

○孫 好実 西村一朗 (○奈良女大・院 奈良女大)

【目的】この研究は、学校週五日制の実施による休日の拡大に対応し、子どもの行動空間を構成する諸条件の内、「遊び圏」に焦点を当て、農山村地区、新興住宅地区、都市型地区の子どもの遊びと遊び空間について、平日と休業土曜日とを対比し、その内容を明らかにすることを目的とした。

【方法】奈良市内の3つの小学校の児童4、5、6年生に対して平成8年10月、アンケート調査を行った。調査対象校は農山村地区として奈良市立の田原小学校、都市型地区として奈良市立大宮小学校、新興住宅地区として奈良市立左京小学校であり、それぞれ73人、108人、99人、計280人である。

【結果】調査の結果、子どもの遊びと遊び空間は、平日と休業土曜日とも全般的にそれぞれに関わってくる地域生活空間に強い影響を受けていることが明らかとなった。農山村地区においては地域生活空間の中でも特に自然環境からの影響を多く受けていることが考えられ、都市型地区においては住宅や商業施設などに囲まれた環境にあることで、子どもが利用する空間は様々であり、個人差が見られる。新興住宅地区については整備された環境が多いことが深く関わっていると言える。また、休業土曜日は平日と比べ大きな変化は見られないものの、テレビゲームなどで家の中で過ごすという子どもは農山村地区では82%、新興住宅地区では66%、都市型地区では49%で、各地区とも休業土曜日に室内にこもる傾向を見せていることでその意味から休業土曜日においての地域の中でのゆとり環境はまだ根づいていないように見える。今後、学校、家庭、地域の連帯という観点から子どもが望むゆとり環境について検討していく必要があると思われる。